

大垣地域の企業景況調査報告書

令和3年10月～12月期

大 垣 商 工 会 議 所
産 業 振 興 委 員 会

大垣地域の企業景況調査報告（令和3年10～12月期）

○調査要領

当調査活動は、大垣管内の300事業所を対象に各業種の景気動向をはじめ、事業所が抱える経営課題やニーズを把握するため、四半期毎に「大垣地域の企業景況調査」を実施しています。

1. 調査対象期間

令和3年10月～12月期の実績・見込み、及び令和4年1月～3月期の見通しについて調査

2. 調査時点

令和3年12月

3. 調査対象

製造業・建設業・卸売業・小売業・サービス業の5業種

○調査対象事業所区分

区別	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	合計
件数	53	30	26	82	96	287
構成比	18.4	10.5	9.1	28.6	33.4	100

4. 調査方法

メール又はFAXを利用

5. 回収状況

回収件数 287件 回収率 95.7%

6. DI（デフュージョンインデックス）景気動向指数

景気動向全体を表すように工夫された指数で、いわば景気の早見表

$$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

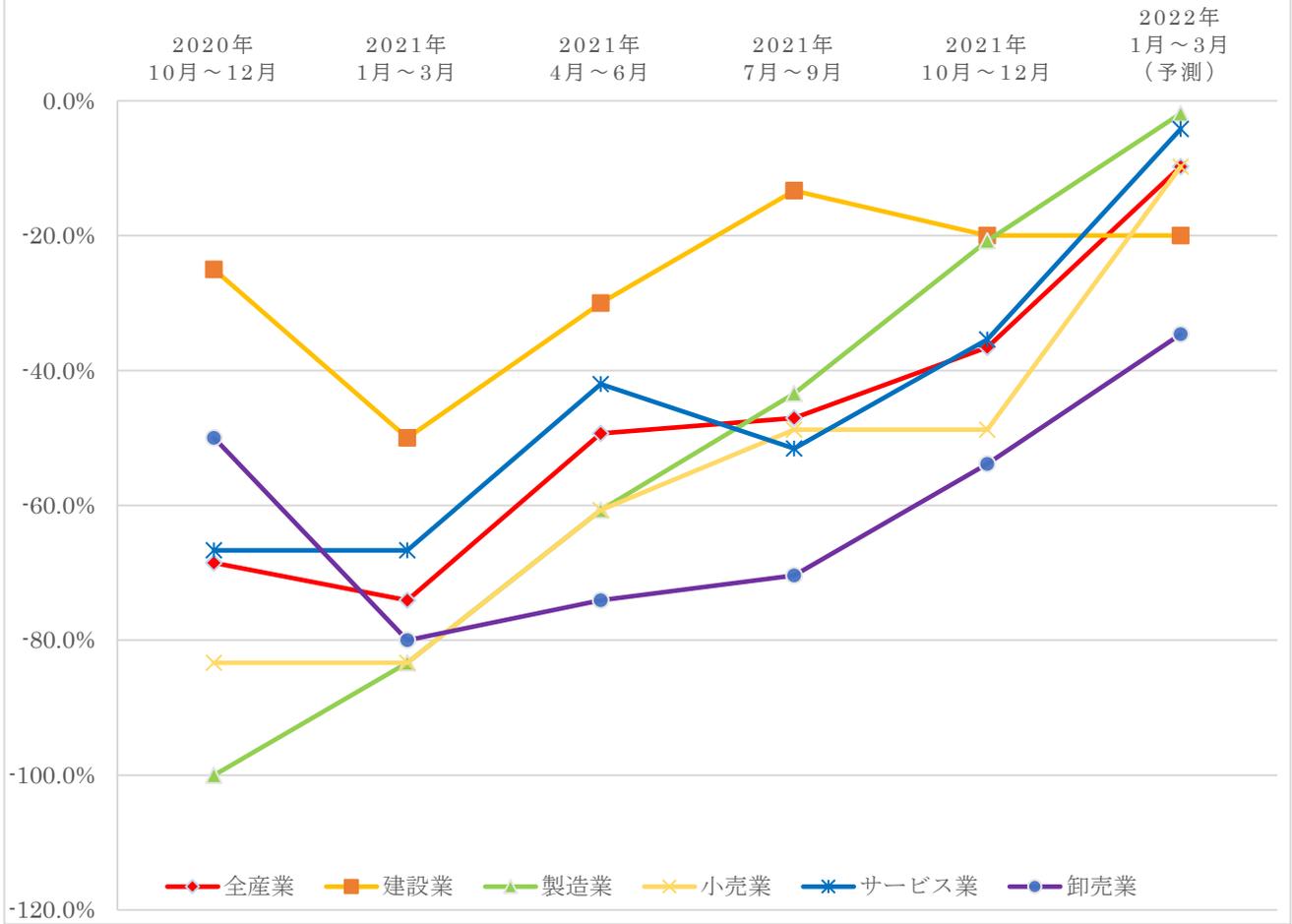
$$\text{状況・採算} : (\text{好転}) - (\text{悪化}) \quad \text{売上} : (\text{増加}) - (\text{減少})$$

◎全産業の概要

- 中小企業の業況は、前期と比較して概ね改善し、来期はさらに回復の見込みである。
- 全産業の業況判断 DI は、前年同月と比較し 31.9 ポイント増と改善傾向にある。
- 産業別に見ても、建設業を除き他産業は改善の見込みがみられる。
- コロナの影響は今後も尾を引くと予想される。

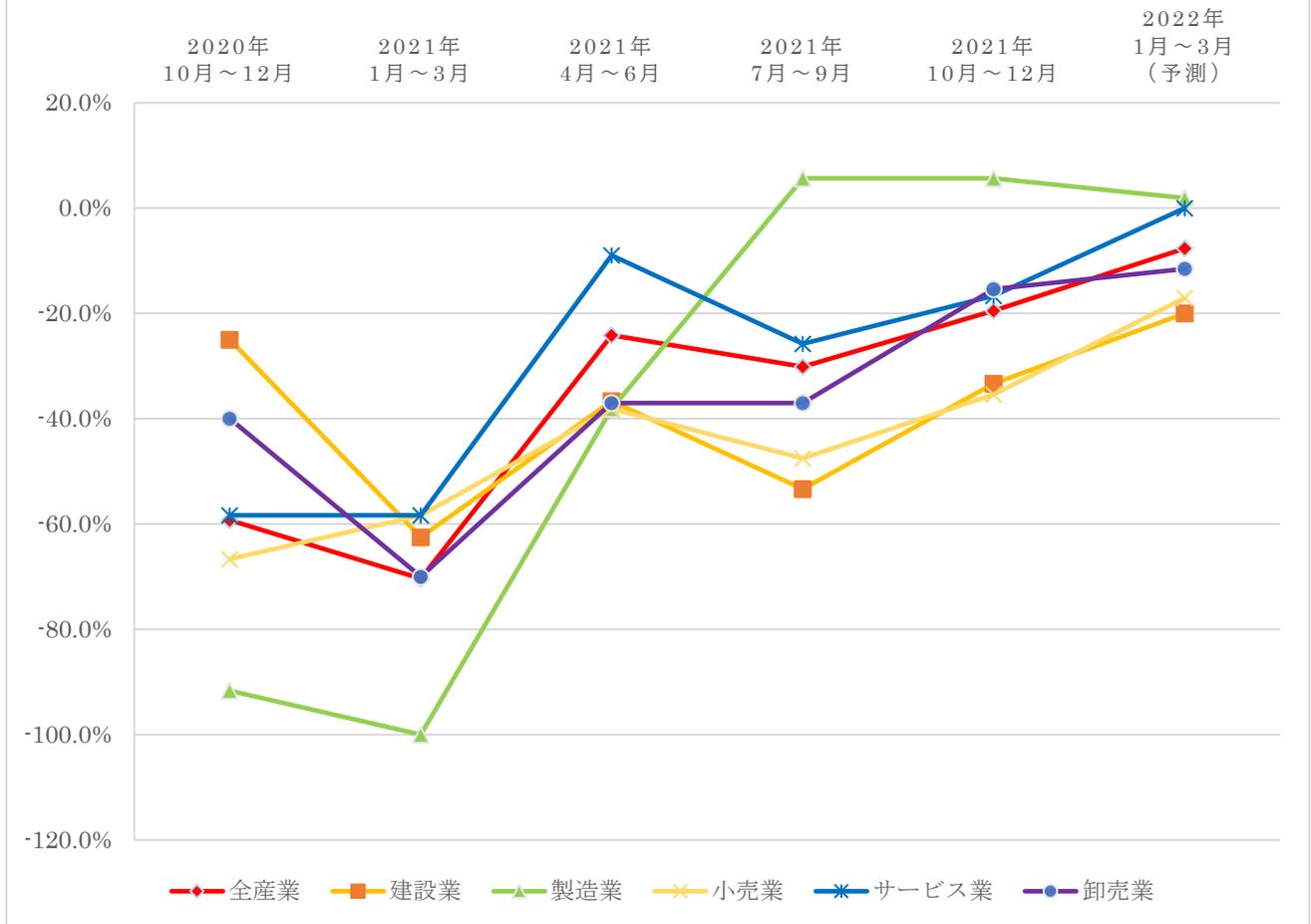
1. 令和 3 年 10～12 月期の全産業の業況判断 DI は、前期▲47.1→今期▲36.6 となった。
2. 全産業の売上 DI は、前期▲30.1→今期▲19.5（前期比 10.6 ポイント増）となり、全体的に改善された。産業別では製造業を除きマイナス幅が減少した。
特に建設業（前期▲53.3→今期▲33.3）、卸売業（前期▲37.0→今期▲15.4）と 20 ポイント以上増となった。
3. 全産業の採算 DI は、前期▲23.5→今期▲16.7（前期比 6.8 ポイント増）となった。
産業別では製造業は、前期 3.8→今期 5.7（前期比 1.9 ポイント増）と改善、サービス業も前期▲28.9→今期▲17.7（前期比 11.2 ポイント増）と改善、卸売業も前期▲44.4→今期▲11.5（前期比 32.9 ポイント増）と、マイナス幅が改善された。
4. 全産業の設備投資実施企業割合は、前期▲9.7→今期▲20.2（前期比 10.5 ポイント減）となった。
産業別に見ると、小売業は、前期▲54.9→今期▲12.2（前期比 42.7 ポイント増）と増加したが、他産業は減少した。
5. 商品仕入単価 DI は、前期 35.3→今期 47.7（前期比 12.4 ポイント増）となった。
売上単価は、前期▲18.0→今期▲9.4（8.6 ポイント増）となった。
6. 全産業の資金繰り DI は、前期▲20.1→今期▲14.3（前期比 5.8 ポイント増）となった。
長期資金借入難易度 DI は、前期▲6.9→今期▲3.8（前期比 3.1 ポイント増）、短期資金借入難易度 DI は、前期▲5.2→今期▲2.1（前期比 3.1 ポイント増）となった。
7. 経営上の問題としては、前期と同様、新型コロナウイルスの影響と石油価格の高騰の影響により「原価材料の上昇」「消費者ニーズの変化への対応」が最大の課題となっており、全産業で上位にランクインしている。業種別に見ると製造業、建設業、サービス業においては「原材料価格の上昇」「仕入単価の上昇」などが依然として課題となっているほか、「従業員の確保難」「熟練技術者の確保難」と人材不足が次の課題となっている。

1. 業況判断DI



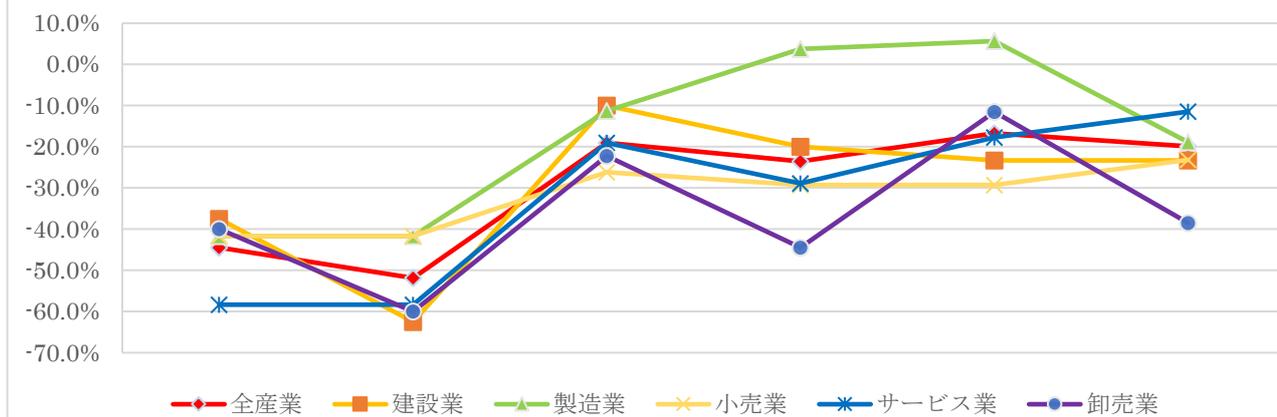
	2020年 10月～12月	2021年 1月～3月	2021年 4月～6月	2021年 7月～9月	2021年 10月～12月	2022年 1月～3月 (予測)
全産業	-68.5%	-74.1%	-49.3%	-47.1%	-36.6%	-9.8%
建設業	-25.0%	-50.0%	-30.0%	-13.3%	-20.0%	-20.0%
製造業	-100.0%	-83.3%	-60.7%	-43.4%	-20.8%	-1.9%
小売業	-83.3%	-83.3%	-60.7%	-48.8%	-48.8%	-9.8%
サービス業	-66.7%	-66.7%	-42.0%	-51.5%	-35.4%	-4.2%
卸売業	-50.0%	-80.0%	-74.1%	-70.4%	-53.8%	-34.6%

2. 売上DI



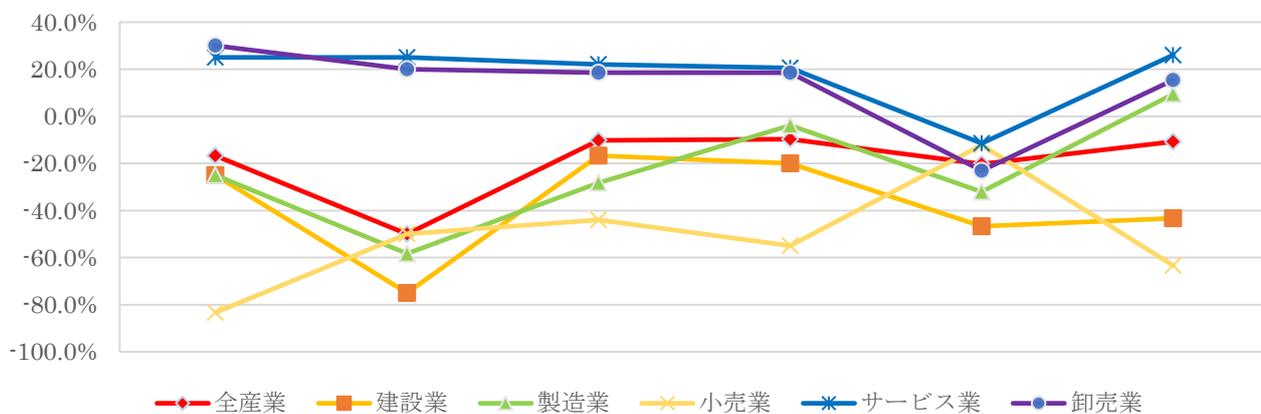
	2020年 10月～12月	2021年 1月～3月	2021年 4月～6月	2021年 7月～9月	2021年 10月～12月	2022年 1月～3月 (予測)
全産業	-59.3%	-70.4%	-24.1%	-30.1%	-19.5%	-7.7%
建設業	-25.0%	-62.5%	-36.7%	-53.3%	-33.3%	-20.0%
製造業	-91.7%	-100.0%	-38.1%	5.7%	5.7%	1.9%
小売業	-66.7%	-58.3%	-38.1%	-47.6%	-35.4%	-17.1%
サービス業	-58.3%	-58.3%	-9.0%	-25.8%	-16.7%	0.0%
卸売業	-40.0%	-70.0%	-37.0%	-37.0%	-15.4%	-11.5%

3. 採算D I



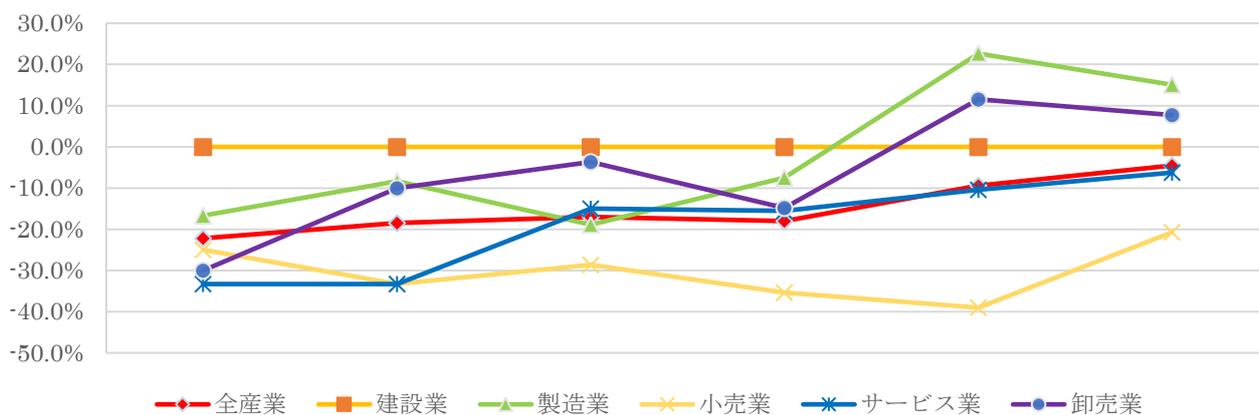
	2020年 10月～12月	2021年 1月～3月	2021年 4月～6月	2021年 7月～9月	2021年 10月～12月	2022年 1月～3月 (予測)
全産業	-44.4%	-51.9%	-19.0%	-23.5%	-16.7%	-19.9%
建設業	-37.5%	-62.5%	-10.0%	-20.0%	-23.3%	-23.3%
製造業	-41.7%	-41.7%	-11.3%	3.8%	5.7%	-18.9%
小売業	-41.7%	-41.7%	-26.2%	-29.3%	-29.3%	-23.2%
サービス業	-58.3%	-58.3%	-19.0%	-28.9%	-17.7%	-11.5%
卸売業	-40.0%	-60.0%	-22.2%	-44.4%	-11.5%	-38.5%

4. 設備投資実施企業割合DI



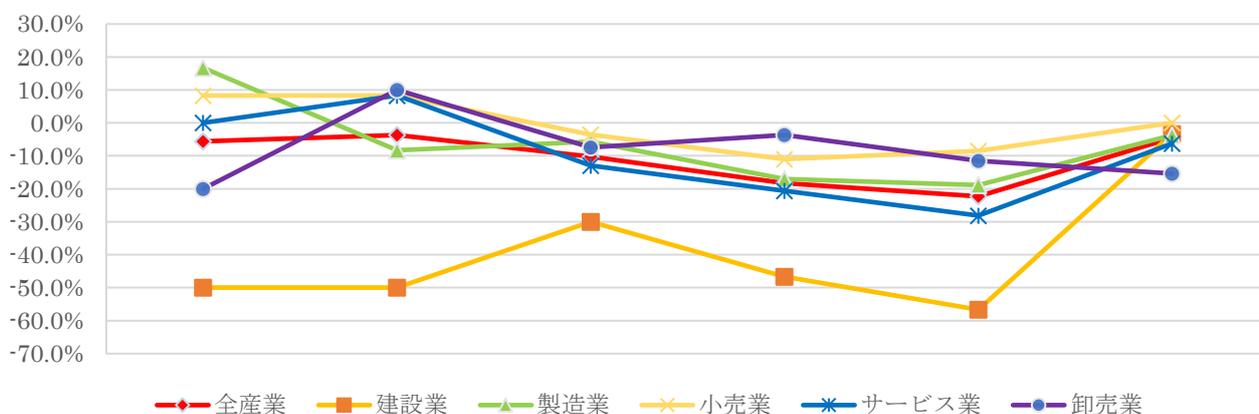
	2020年 10月～12月	2021年 1月～3月	2021年 4月～6月	2021年 7月～9月	2021年 10月～12月	2022年 1月～3月 (予測)
全産業	-16.7%	-50.0%	-10.2%	-9.7%	-20.2%	-10.8%
建設業	-25.0%	-75.0%	-16.7%	-20.0%	-46.7%	-43.3%
製造業	-25.0%	-58.3%	-28.3%	-3.8%	-32.1%	9.4%
小売業	-83.3%	-50.0%	-44.0%	-54.9%	-12.2%	-63.4%
サービス業	25.0%	25.0%	22.0%	20.6%	-11.5%	26.0%
卸売業	30.0%	20.0%	18.5%	18.5%	-23.1%	15.4%

5. 価格動向DI「売上単価」



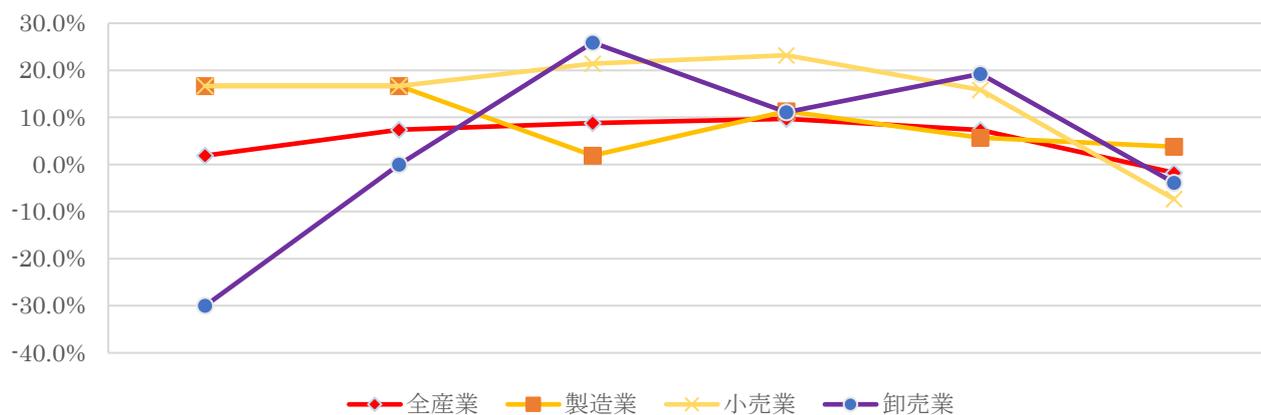
	2020年 10月～12月	2021年 1月～3月	2021年 4月～6月	2021年 7月～9月	2021年 10月～12月	2022年 1月～3月 (予測)
全産業	-22.2%	-18.5%	-17.0%	-18.0%	-9.4%	-4.5%
建設業	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
製造業	-16.7%	-8.3%	-18.9%	-7.5%	22.6%	15.1%
小売業	-25.0%	-33.3%	-28.6%	-35.4%	-39.0%	-20.7%
サービス業	-33.3%	-33.3%	-15.0%	-15.5%	-10.4%	-6.3%
卸売業	-30.0%	-10.0%	-3.7%	-14.8%	11.5%	7.7%

6. 雇用人員DI



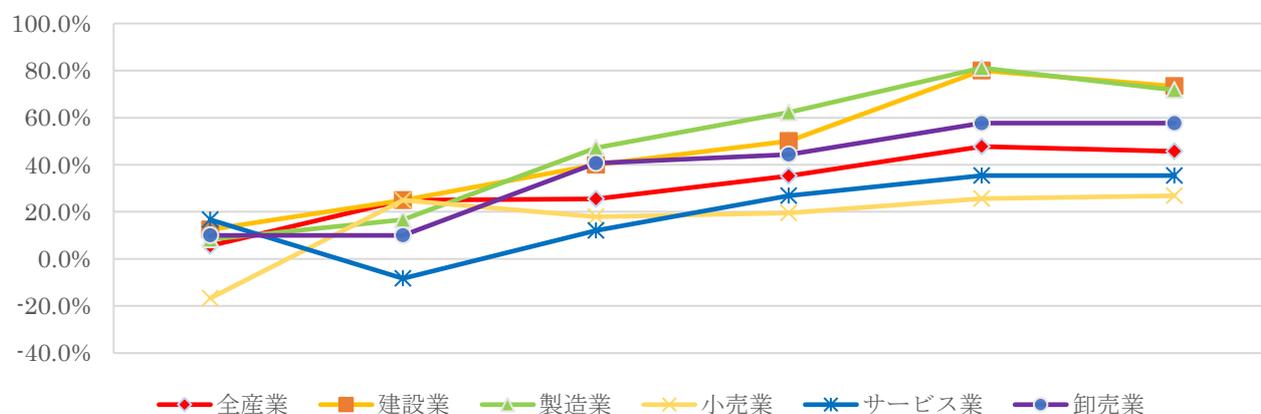
	2020年 10月～12月	2021年 1月～3月	2021年 4月～6月	2021年 7月～9月	2021年 10月～12月	2022年 1月～3月 (予測)
全産業	-5.6%	-3.7%	-10.2%	-18.3%	-22.3%	-4.5%
建設業	-50.0%	-50.0%	-30.0%	-46.7%	-56.7%	-3.3%
製造業	16.7%	-8.3%	-5.7%	-17.0%	-18.9%	-3.8%
小売業	8.3%	8.3%	-3.6%	-11.0%	-8.5%	0.0%
サービス業	0.0%	8.3%	-13.0%	-20.6%	-28.1%	-6.3%
卸売業	-20.0%	10.0%	-7.4%	-3.7%	-11.5%	-15.4%

7. 在庫水準判断DI



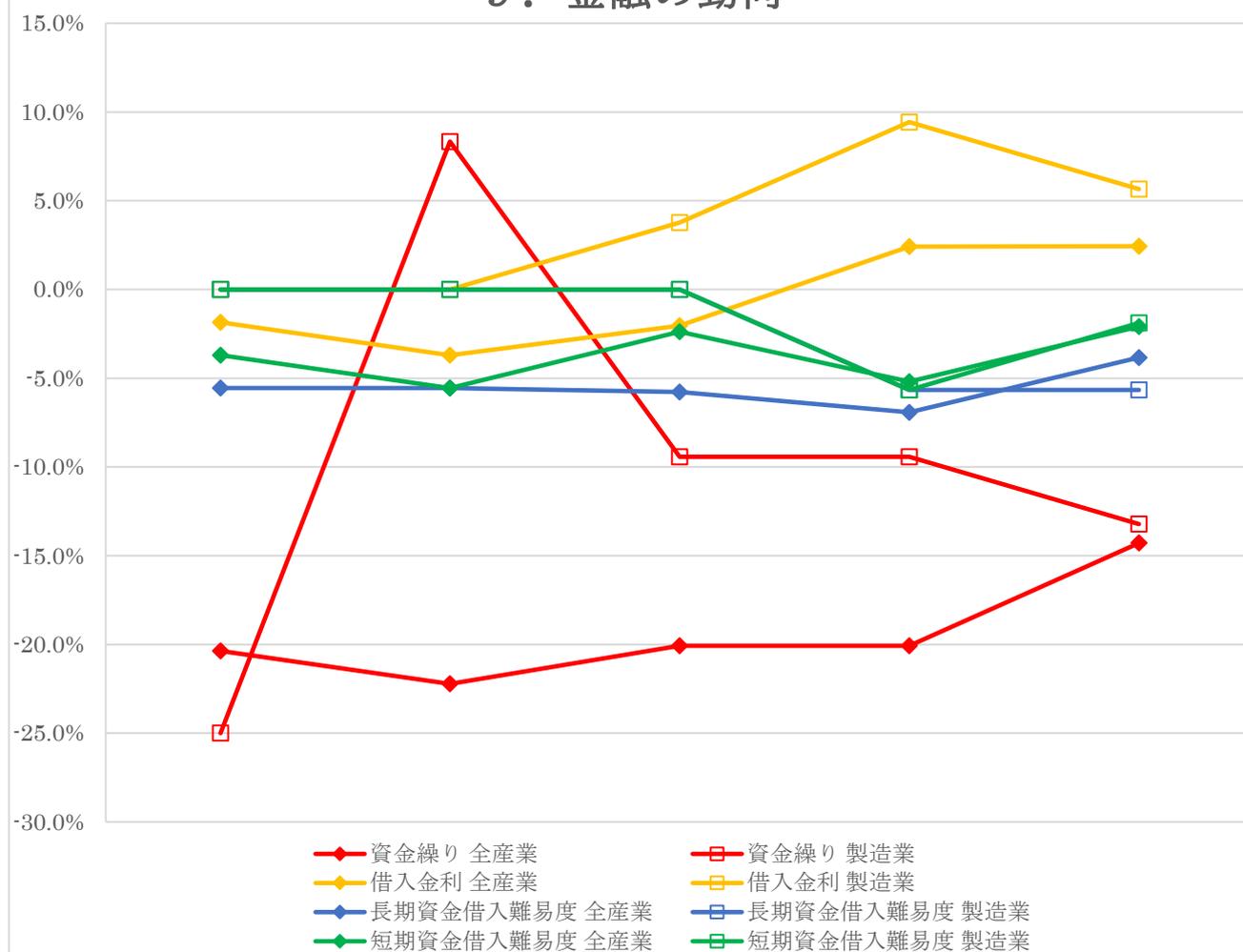
	2020年 10月～12月	2021年 1月～3月	2021年 4月～6月	2021年 7月～9月	2021年 10月～12月	2022年 1月～3月 (予測)
全産業	1.9%	7.4%	8.8%	9.7%	7.3%	-1.7%
製造業	16.7%	16.7%	1.9%	11.3%	5.7%	3.8%
小売業	16.7%	16.7%	21.4%	23.2%	15.9%	-7.3%
卸売業	-30.0%	0.0%	25.9%	11.1%	19.2%	-3.9%

8. 価格動向DI「仕入単価」



	2020年 10月～12月	2021年 1月～3月	2021年 4月～6月	2021年 7月～9月	2021年 10月～12月	2022年 1月～3月 (予測)
全産業	5.6%	25.0%	25.5%	35.3%	47.7%	45.6%
建設業	12.5%	25.0%	40.0%	50.0%	80.0%	73.3%
製造業	8.3%	16.7%	47.2%	62.3%	81.1%	71.7%
小売業	-16.7%	25.0%	17.9%	19.5%	25.6%	26.8%
サービス業	16.7%	-8.3%	12.0%	26.8%	35.4%	35.4%
卸売業	10.0%	10.0%	40.7%	44.4%	57.7%	57.7%

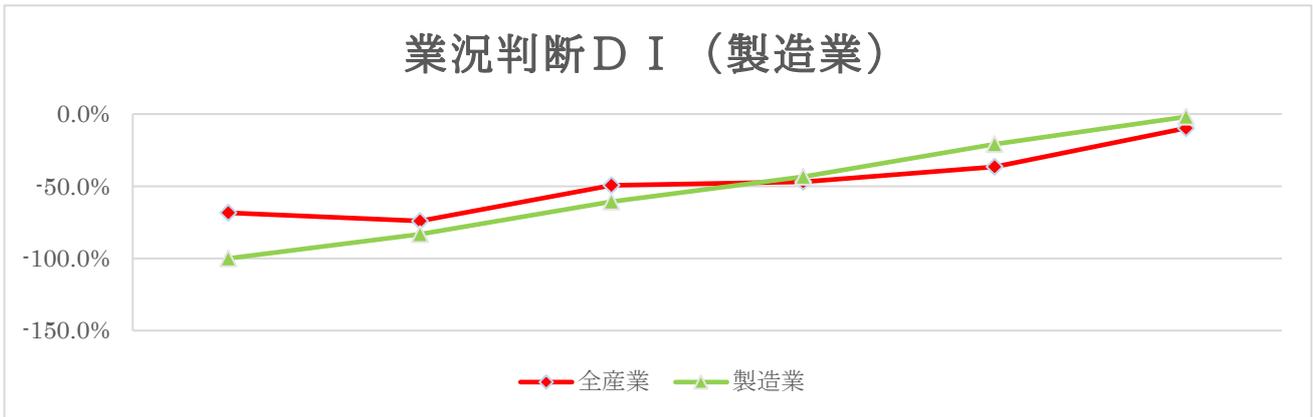
9. 金融の動向



	2020年 10月～12月	2021年 1月～3月	2021年 4月～6月	2021年 7月～9月	2021年 10月～12月
資金繰り 全産業	-20.4%	-22.2%	-20.1%	-20.1%	-14.3%
資金繰り 製造業	-25.0%	8.3%	-9.4%	-9.4%	-13.2%
借入金利 全産業	-1.9%	-3.7%	-2.0%	2.4%	2.4%
借入金利 製造業	0.0%	0.0%	3.8%	9.4%	5.7%
長期資金借入難易度 全産業	-5.6%	-5.6%	-5.8%	-6.9%	-3.8%
長期資金借入難易度 製造業	0.0%	0.0%	0.0%	-5.7%	-5.7%
短期資金借入難易度 全産業	-3.7%	-5.6%	-2.4%	-5.2%	-2.1%
短期資金借入難易度 製造業	0.0%	0.0%	0.0%	-5.7%	-1.9%

◎製造業

○状況判断 DI (好転-好転)



	2020年 10月～12月	2021年 1月～3月	2021年 4月～6月	2021年 7月～9月	2021年 10月～12月	2022年 1月～3月 (予測)
全産業	-68.5%	-74.1%	-49.3%	-47.1%	-36.6%	-9.8%
製造業	-100.0%	-83.3%	-60.7%	-43.4%	-20.8%	-1.9%

今期の業況判断 DI は、(前期▲43.4) →今期▲20.8 と改善した。来期は▲1.9 と大幅な改善を予想している。

売上 DI は、(前期 5.7) →今期 5.7 と横ばいであった。来期は 1.9 と悪化を予想している。

採算 DI は、(前期 3.8) →今期 5.7 と改善された。来期は▲18.9 とマイナス幅の拡大を予想している。

設備投資実施企業割合は (前期▲3.8) →今期▲32.1 と大幅に減少した。来期は 9.4 と増加を予想している。

経営上の問題点は、1位は「原価材料の上昇」、2位は「製品ニーズの変化」、3位は、「生産設備の不足」4位は「需要の停滞」、5位は「従業員の確保難」であった。

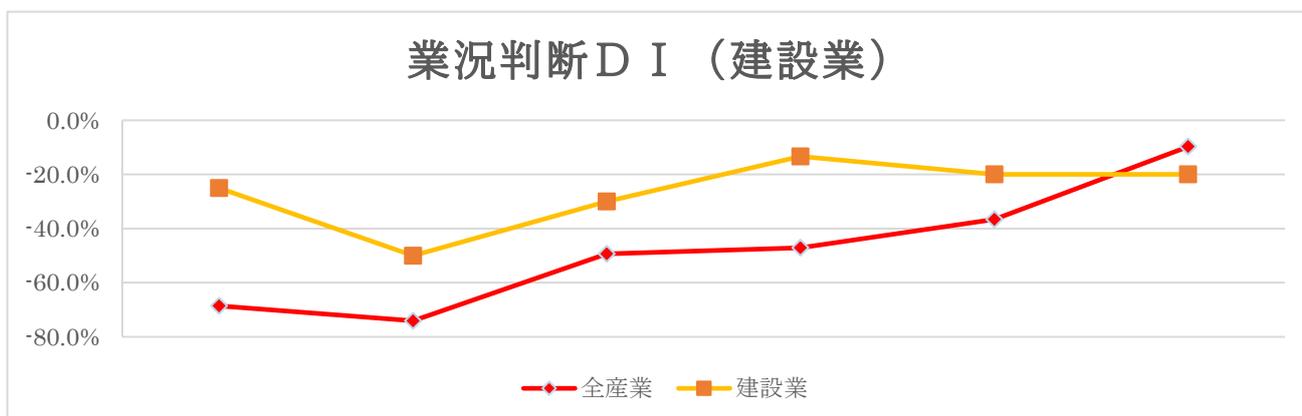
	1位	2位	3位	4位	5位
2021年 10月～12月	71 原価材料の上昇	42 製品ニーズの変化	38 生産設備の不足	21 需要の停滞	20 従業員の確保難
2021年 7月～9月	49 需要の停滞	43 原価材料の上昇	35 生産設備の不足	33 製品ニーズの変化への対応	22 従業員の確保難
2021年 4月～6月	57 需要の停滞	40 生産設備の不足・老朽化	35 原材料価格の上昇	26 製品(加工)単価の低下・上昇難	26 製品ニーズの変化への対応
2021年 1月～3月	22 需要の停滞	15 製品ニーズの変化への対応	9 生産設備の不足・老朽化	9 熟練技術者の確保難	5 従業員の確保難

<声>

- ・需要予測が非常に厳しい状態が続いており、製造量を減らしたことが仇になって、一年近く主力製品の在庫不足が続いている。一方、新商品やその他商品の売上が極めて悪い。
- ・石油価格に伴い、原材料価格の上昇、納期遅延が販売に少なからず影響が出ている。
- ・輸入ストップによる材料不足、価格の上昇が続いている。単価に還元するも客離れに不安がある。
- ・PKG 事業はテレワークおよび遠隔教育の定着により、パソコン市場が堅調に推移したことに加え、データセンター向けを主にしたことで市場が好調に推移した。
- ・昨年4月～6月は、コロナにより需要の減少による売上減少。今年8月～11月は、コロナによる原材料不足による売上減少。昨年7月以降は、V字回復したが、今年12月以降は原材料不足は続くことが予想される。
- ・8～10月は、売上が少し悪い。
- ・売上が落ちてきている。対策を考えないといけないが、具体的に動けていない。
- ・余剰設備、老朽化した設備の処分、または更新は直接利益を生まないが、新しい事業を始める準備としては必要な事である。しかし補助金、助成金の類の対象とはなり難いので、取り組めないままである。

◎建設業

○状況判断 DI (好転－悪化)



	2020年 10月～12月	2021年 1月～3月	2021年 4月～6月	2021年 7月～9月	2021年 10月～12月	2022年 1月～3月 (予測)
全産業	-68.5%	-74.1%	-49.3%	-47.1%	-36.6%	-9.8%
建設業	-25.0%	-50.0%	-30.0%	-13.3%	-20.0%	-20.0%

今期の業況判断DIは、(前期▲13.3) →今期▲20.0とマイナス幅が拡大した。来期は▲20.0と横ばいを予想している。

売上DIは、(前期▲53.3) →今期▲33.3と改善した。来期も▲20.0とマイナスの幅の縮小を予想している。

採算DIは、(前期▲20.0) →今期▲23.3とマイナス幅が拡大した。来期は▲23.3と横ばいを予想している。

設備投資実施企業割合は（前期▲20.0）→今期▲46.7と減少した。来期は▲43.3と増加を予想している。

経営上の問題点は、1位は「材料価格の上昇」、2位は「従業員の確保難」、3位は「材料の入手難」、4位は「熟練技術者の確保難」、5位は「民間需要の停滞」であった。

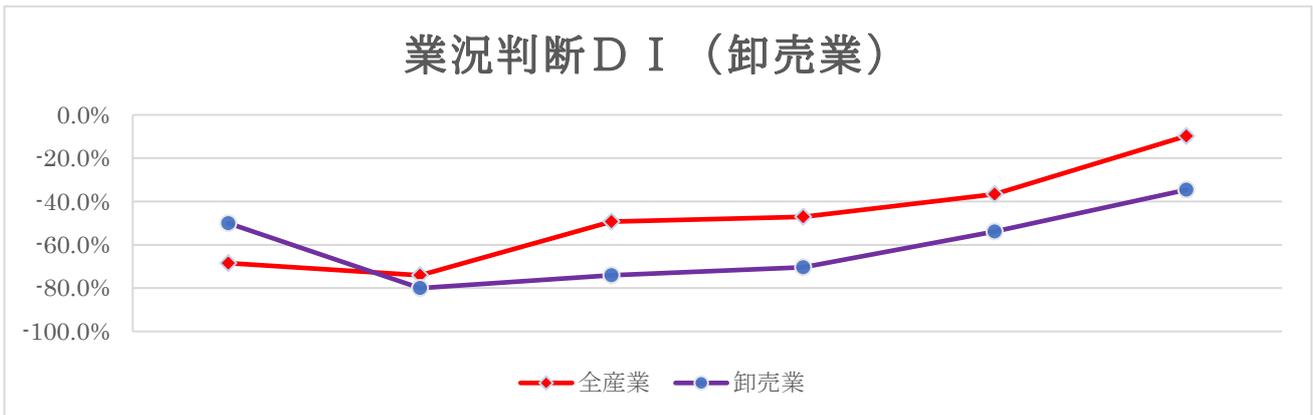
	1位	2位	3位	4位	5位
2021年 10月～12月	36 材料価格の上昇	35 従業員の確保難	17 材料の入手難	13 熟練技術者の確保難	12 民間需要の停滞
2021年 7月～9月	37 民間需要の停滞	26 従業員の確保難	20 材料価格の上昇	20 官公需要の停滞	11 熟練技術者の確保難
2021年 4月～6月	29 民間需要の停滞	24 従業員の確保難	20 材料価格の上昇	19 官公需用の停滞	16 熟練技術者の確保難
2021年 1月～3月	12 従業員の確保難	7 熟練技術者の確保難	6 民間需要の停滞	6 官公需用の停滞	3 材料価格の上昇

<声>

- ・夏場は受注が減少したが、下期に予算が動き出し回復した。借入金はなく、資金に余裕は有る。
- ・建設業での従業員（現場作業員等の）確保が厳しく人材不足である。

◎卸売業

○状況判断 DI（好転－好転）



	2020年 10月～12月	2021年 1月～3月	2021年 4月～6月	2021年 7月～9月	2021年 10月～12月	2022年 1月～3月 (予測)
全産業	-68.5%	-74.1%	-49.3%	-47.1%	-36.6%	-9.8%
卸売業	-50.0%	-80.0%	-74.1%	-70.4%	-53.8%	-34.6%

今期の業況判断DIは、（前期▲70.4）→今期▲53.8と少し改善した。来期も▲34.6と改善を予想している。

売上DIは、（前期▲37.0）→今期▲15.4と大幅に改善した。来期も▲11.5と改善を予想している。

採算 DI は、(前期▲44.4) → 今期▲11.5 と大幅に改善した。来期は▲38.5 とマイナス幅の拡大を予想している。

設備投資実施企業割合は (前期 18.5) → 今期▲23.1 と減少した。来期は 15.4 と増加を予想している。

経営上の問題点は、1位は「仕入れ単価の上昇」、2位は「販売単価の低下・上昇難」、3位は「従業員の確保難」、4位は「需要の停滞」、5位は「その他」であった。

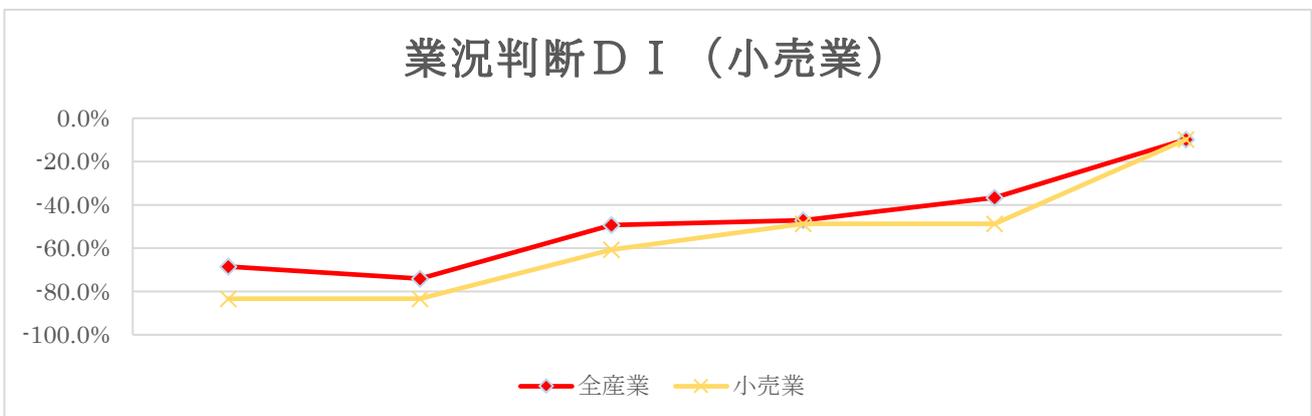
	1位	2位	3位	4位	5位
2021年 10月～12月	28 仕入れ単価の上昇	19 販売単価の低下・上昇難	14 従業員の確保難	14 需要の停滞	11 その他
2021年 7月～9月	35 需要の停滞	31 仕入れ単価の上昇	17 販売単価の低下・上昇難	11 人件費の増加	8 大企業の進出による競争の激化
2021年 4月～6月	53 需要の停滞	22 仕入単価の上昇	12 人件費以外の経費増加	11 販売単価の低下・上昇難	9 人件費の増加
2021年 1月～3月	22 需要の停滞	6 事業資金の借入難	5 大企業の進出による競争の激化	5 小売業の進出による競争の激化	3 販売単価の低下・上昇難

<声>

- ・納期の長期化が問題となっている。
- ・リピート商品の低調並びにスポット商品引合の減少により売上低迷。
- ・コロナウイルスによる売上減少に対して、打開策を引き出したい。
- ・売上に関しては前年同期と比べ微増となる見込みである。
- ・昨今の石油事情に伴う原材料の価格上昇が厳しく、顧客の理解が困難である。

◎小売業

○状況判断 DI (好転－好転)



	2020年 10月～12月	2021年 1月～3月	2021年 4月～6月	2021年 7月～9月	2021年 10月～12月	2022年 1月～3月 (予測)
全産業	-68.5%	-74.1%	-49.3%	-47.1%	-36.6%	-9.8%
小売業	-83.3%	-83.3%	-60.7%	-48.8%	-48.8%	-9.8%

今期の業況判断 DI は、(前期▲48.8) →今期▲48.8 と横ばいであった。来期は▲9.8 と大幅な改善を予想している。

売上 DI は、(前期▲47.6) →今期▲35.4 と改善した。来期も▲17.1 とマイナス幅の縮小を予想している。

採算 DI は、(前期▲29.3) →今期▲29.3 と横ばいであった。来期は▲23.2 とマイナス幅の縮小を予想している。

設備投資実施企業割合は (前期▲54.9) →今期▲12.2 と大幅に増加した。来期は▲63.4 と減少を予想している。

経営上の問題点は、1位は「消費者ニーズの変化への対応」、2位は「需要の停滞」、3位は「販売単価の低下・上昇難」、4位は「仕入単価の上昇」、5位は「店舗の老朽化」であった。

	1位	2位	3位	4位	5位
2021年 10月～12月	69 消費者ニーズ の変化への対 応	61 需要の停滞	42 販売単価の低 下・上昇難	37 仕入単価の上 昇	35 店舗の老朽化
2021年 7月～9月	82 需要の停滞	78 消費者ニーズ の変化への対 応	36 仕入単価の上 昇	31 大型店・中型 店の進出によ る競争の激化	30 販売単価の低 下・上昇難
2021年 4月～6月	99 消費者ニーズ の変化への対 応	97 需要の停滞	33 店舗の老朽化	30 販売単価の低 下・上昇難	27 同業者の進出
2021年 1月～3月	20 需要の停滞	15 消費者ニーズ の変化への対 応	7 販売単価の低 下・上昇難	4 従業員の確保 難	4 購買力の他地 域への流出

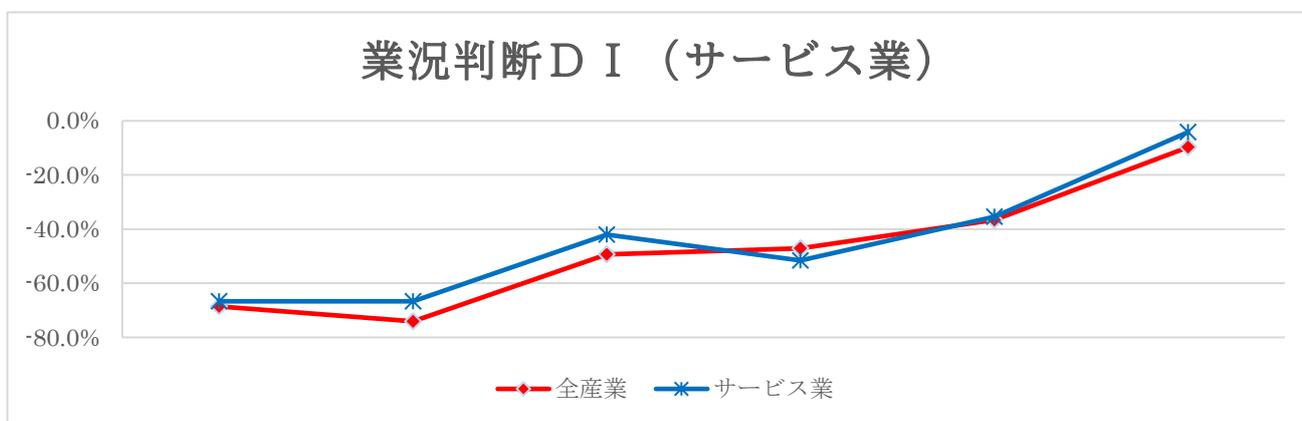
<声>

- ・コロナ収束につれてイベントや催物が増え、仕事の依頼は徐々に増えているが、以前より悪く採算が合っていない。
- ・コロナをはじめとする外的環境の変化に伴う商品供給、仕入単価の上昇に苦慮、売り逃し利幅の減少が当面の課題である。
- ・コロナ禍、回復見込みが困難である。
- ・コロナ禍で、折込チラシの回復が鈍く、昨年比 90%、一昨年比 60%利益への寄与度が新聞販売収入より大きいため、赤字脱却が難しい。
- ・コロナが落ち着いてきているので、年末にかけて売上上昇を期待している。

- ・ネット通販との競合で受注額が減り続けております。緊急事態宣言解除で個人需要は多少増加がみられるも、企業向けが回復していない。
- ・コロナウイルスの影響により、客数が減少している。
- ・個人需要が増えたため、企業取引の需要の減少をカバーできた。
- ・今後の経済回復に期待したい。
- ・生活様式の変化により仏間はいらぬとの声が増えている。客の世代交代の表れが起きている。
- ・飲食店等の再開で仕事量が回復することに期待したいが、コロナの第6波にそなえてネガティブな経営でもう少しいきたいと思う。
- ・第一に、コロナの影響による客離れが深刻です。第二に、経営に関わる従事者の高齢化を問題視しています。そのため、当事業を続けながら新たな事業構築にも尽力している次第です。

◎サービス業

○状況判断 DI (好転-好転)



	2020年 10月～12月	2021年 1月～3月	2021年 4月～6月	2021年 7月～9月	2021年 10月～12月	2022年 1月～3月 (予測)
全産業	-68.5%	-74.1%	-49.3%	-47.1%	-36.6%	-9.8%
サービス業	-66.7%	-66.7%	-42.0%	-51.5%	-35.4%	-4.2%

今期の業況判断 DI は、(前期▲51.5) →今期▲35.4 と改善した、来期は▲4.2 と大幅な改善を予想している。

売上 DI は、(前期▲25.8) →今期▲16.7 と改善した。来期も 0.0 とマイナス幅の縮小を予想している。

採算 DI は、(前期▲28.9) →今期▲17.7 と改善した。来期も▲11.5 とマイナス幅の縮小を予想している。

設備投資実施企業割合は (前期 20.6) →今期▲11.5 と減少した。来期は 26.0 と増加を予想している。

経営上の問題点は、1位は「利用者のニーズの変化への対応」、2位は「需要の停滞」、3位は「材料等仕入単価の上昇」、4位は「従業員の確保難」、5位は「材料等仕入単価の上昇」であった。

	1位	2位	3位	4位	5位
2021年 10月～12月	66 利用者のニーズの変化への対応	61 需要の停滞	52 材料等仕入単価の上昇	52 従業員の確保難	36 人件費の増加
2021年 7月～9月	88 利用者のニーズの変化への対応	73 需要の停滞	41 熟練従業員の確保難	38 従業員の確保難	33 材料等仕入単価の上昇
2021年 4月～6月	102 利用者のニーズの変化への対応	93 需要の停滞	48 従業員の確保難	34 熟練技術者の確保難	33 利用料金の低下・上昇難
2021年 1月～3月	19 需要の停滞	10 利用料金の低下・上昇難	9 その他（SNSの活用、営業時間の短縮）	8 利用者のニーズの変化への対応	3 従業員の確保難

<声>

- ・まだまだコロナウイルスの影響により、売上が厳しい状況が続きます。業種転換、事業変更を考えています。
- ・コロナの影響がいまだに続いていて、客足がのびない。特に平日は今までにない最悪の売上が続いている。
- ・コロナの収束がみえず、以前厳しい状況です。
- ・お客様は減っていないが利益が少なく、赤字の月があるのが問題。何か対策しないといけない。
- ・コロナ禍において経済の動きが止まったような感覚が強かった。
- ・自粛要請に応えるのも正直もうしんどいです。申請も大変。自粛要請に応えずに営業を続ける店の気持ちがちょっと分かる気もします。
- ・2年間も縛りつけられての不自由な経営に、多くの事業主が苛立ちを感じています。
- ・緊急事態宣言が明け、人の流れが変わり土日の来店客数がぐっと減りました。
- ・岐阜県内の中小企業者の景況感が、「車・IT関係」を除く業種が、コロナ禍の悪影響が続いているため、当社売上利益が上昇できない状態である。
- ・売上が伸びてきて、順調です。
- ・コロナ感染者の人数が少なくなったので、お酒を飲む人が少しずつ多くなってきている。
- ・コロナの感染が収まっても、なかなか景気は戻らない。
- ・コロナ後遺症による需要冷え込みが、法人中心に見られつつあります。顧客ニーズに沿うサービスや商品を、これまで以上に提供しないと生き残れない。メーカーが提供する新商品は出足が悪い。
- ・仕入単価の上昇で、利益が上がりません。
- ・地方創生交付金を活用した商工会議所主導の景気回復のための事業創出に期待しています。
- ・コロナの影響による需要減少(イベント業務)とコロナによる特需のバランスで、今期は良い業況となった。

- コロナの影響は、まだ続いています。
- 運転資金が回らず事貸状態になっている。
- 飲食店にとって、お客様の外出控えによるマイナス要因が続くと思っています。加えて、食材調達費用の増加も影響が大きいです。
- ホームページのおかげで、単価の高い法要の新規の客が増えた。集会の弁当の数の多い注文はな
くなっている。
- コロナ禍が長すぎて、やる気が失せてしまった。
- 人の流れをある程度規制する政策は、耐えるしかありません。資金が年々減ってきているので、
借入等をして再起をはかりたいと考えております。